

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成26年6月5日現在

機関番号：34310  
 研究種目：若手研究(B)  
 研究期間：2010～2013  
 課題番号：22710266  
 研究課題名（和文）  
 福祉権フェミニズムにおけるベーシック・インカム要求とケアの社会化要求の関連の研究  
 研究課題名（英文） Welfare Rights Feminism on Basic Income and Socialization of Care  
 研究代表者  
 山森 亮 (YAMAMORI, Toru)  
 研究者番号：90325994  
 同志社大学・経済学部・教授  
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）2,300,000円、（間接経費）690,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、これまでフェミニズム研究においてあまり取り上げられてこなかった、1970年代のいくつかの国での労働者階級の女性達による社会運動に焦点をあて、第一に、それらがベーシックインカムとケアの社会化の両方を要求していたこと、第二に、その「福祉権フェミニズム」と呼ぶことができる独特の傾向は、彼女達の労働者階級の福祉要求者としての日々の経験と、新たに現れつつあったフェミニズムの言説との結合によって可能となったことを明らかにした。また第三に、彼女達のヴィジョンの持つ理論的含意について考察した。

研究成果の概要（英文）：This research reveals the unique combination of demands by some working class feminist movements in several countries in 1970s, which has been sidelined in academia. The movements, I name it 'Welfare Rights Feminism', demanded both basic income and socialization of care, by connecting their everyday experience as working class claimants with newly emerged feminist discourses. Their visions preceded some of feminist theorizing such as 'universal caregiver model (by Nancy Fraser)', and went far beyond them.

研究分野：ジェンダー

科研費の分科・細目：

キーワード：福祉権、フェミニズム、ベーシック・インカム、ケアの社会化

### 1. 研究開始当初の背景

社会保険・公的扶助を大きな柱とする現行の社会政策の枠組みを根底から組み換えることになるベーシック・インカム(Basic Income)構想が、近年世界規模で議論されている。多くの国の緑の党でベーシック・インカムが綱領に含まれたり、ナミビアやブラジルの一部のコミュニティで社会実験としてベーシック・インカムが導入されたりしているのはその一例である。

学問的にも、1986年に結成されたベーシック・インカム欧州ネットワークは学術的な議論を飛躍的に深化させ、2004年に世界ネットワーク(Basic Income Earth Network, 以下BIENと表記)へと発展的に改組されるに至っている。またこのネットワークを母体

に2005年には学術誌Basic Income Studiesも創刊された(申請者は2006年まで編集委員を務めた)。

他方で一部の研究(女性運動史研究や申請者によるものを含む)が明らかにしつつあるように、1930年代および1970年代には、世界の複数の地域でベーシック・インカムを要求する社会運動が存在したし(Nadasen 2005, Yamamori 2006)、現在でも幾つかの地域では運動が持続している。しかしながらベーシック・インカム研究の主流がこれらに言及することは殆どない。

国内的にもこうした世界的な研究状況を反映して、ベーシック・インカムに言及する研究論文は本研究開始までの数年で飛躍的に増大しつつあった。また日本障害学会や日本フェミニスト経済学会などのシンポジウ

ムや共通論題などでベーシック・インカムが取り上げられるなど（申請者はそれぞれ基調講演者、座長を務めた）、議論は広がりつつあったが、ジェンダー研究の立場からの本格的な検討は端緒についたばかりという状態であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、ベーシック・インカム構想が、イギリス、アメリカ、カナダ、イタリアなどのシングルマザーたちを中心とした社会運動のなかで 1970 年代に要求項目に挙げられていたことを明らかにし、その意味を分析することである。

第二に、彼女たちの運動を「福祉権フェミニズム」として整理し、そこにおいてケアの社会化要求がベーシック・インカムなどの所得保障の要求とどのように関連していたか、また労働現場でのフェミニズムとどのように接続していたかを明らかにすることである。第三に、上記第一、第二で明らかになる知見のもつ理論的含意について整理することである。

## 3. 研究の方法

文献研究と福祉権団体および研究者へのヒアリング調査によって、福祉権フェミニズムにおけるベーシックインカム要求についての概略的な通史を纏める。

またイギリスの福祉権団体の一つである要求者組合参加者へのインタビュー調査、およびイギリスの女性運動団体である「家事労働に賃金を」キャンペーンの活動家へのインタビュー調査によって、ケアの社会化要求とベーシック・インカム要求がどのように関連していたかを明らかにする。この点を巡っては先行研究がほとんど存在しないため、インタビュー調査に大きく依存せざるを得ない。いわばオーラル・ヒストリー的アプローチを取ることになる。

これらを踏まえ、福祉権フェミニズムの視点から、プレーザーの普遍的ケア提供者モデルの再検討を行う。この部分は分析的な社会理論の伝統にしたがった研究方法を採用する。

成果はベーシック・インカム関連の国際会議、フェミニズム関連の国際会議などで報告する他、数本の論文にまとめ公刊する。

## 4. 研究成果

本研究の成果として以下の点が挙げられる。第一に、イギリス、アメリカ、カナダ、

イタリアなどの女性たちを中心とした社会運動のなかで 1970 年代にベーシック・インカムが要求項目に挙げられていたことが明らかとなった。

第二に、(英語圏/日本語圏ともに) フェミニズム研究において、ベーシック・インカムを要求していた彼女達(彼女たち)の社会運動がほとんど言及されていないことを明らかにした。

従来の「社会主義フェミニズム」対「ラディカル・フェミニズム」といった構図、あるいは「リベラル・フェミニズム」/「ウェルフェア・フェミニズム」/「ブラック・フェミニズム」という分類、あるいは、「第一波フェミニズム」/「第二派フェミニズム」といった腑分け、いずれにおいても彼女達の運動は抜け落ちてしまう。本研究で明らかになった彼女達の社会運動の共通点を踏まえ、それらを「福祉権フェミニズム」として整理した。

第三に、おもにイギリスでの運動に焦点において、ケアの社会化要求がベーシック・インカムなどの所得保障の要求とどのように関連していたか、また労働現場でのフェミニズムとどのように接続していたかを、アーカイブワークやインタビュー調査に基づいて明らかにした。

具体的には、要求者組合運動は、ケアの社会化とベーシック・インカムとを不可分の要求として認識し、同時に要求していたことを明らかにした。またエスニック・マイノリティーの女性労働者たちのストライキへの連帯活動を精力的に行う等、労働現場のフェミニズムとも強く結びついていたことを明らかにした。

また要求者組合と同一視されることもある、「家事労働に賃金を」キャンペーンの活動家にもインタビューを行い、二つのグループの共同と対立についても明らかにした。両者は、福祉国家行政における性差別(例えばいわゆる「同棲ルール」)や、福祉削減の動き(例えば児童手当の廃止案)に対しては、共同して闘争を組んだ一方、積極的な要求項目を巡っては鋭く対立したのである。「家事労働に賃金を」キャンペーンの主要な活動家達は、ベーシック・インカム要求を、理念的には肯定しつつも、1970年代はケア活動が主に女性によって担われていることを社会に訴えかけていかなければならない時期であり、戦略的に間違った主張であると見なした。それに対して、要求者組合の女性達は、「家事労働に賃金を」要求を、性別役割分業を強化しかねないものと見なしたのである。なお本研究は、いずれのグループも、それぞれの要求とともに、ケアの社会化を必要なものと見なし、積極的に要求していたことも明らかにした。

第四に、こうした彼女達の要求とヴィジ

ンは、現代のフェミニズム理論における、例えば「普遍的ケア提供者モデル (N. Fraser)」などの議論を先取りし、かつさらにその先を行くものであったことを明らかにした。

すなわち「普遍的ケア提供者モデル」においては、労働なりケアなりに従事することが可能な成人が世帯のなかに複数いることが前提となっており、その意味で健常者からなる核家族を前提としたモデルとなっている。これに対して、本研究で明らかにされた、要求者組合運動をはじめとする福祉権フェミニズム運動においては、こうした諸前提が根底から問いただされた。その先にベーシックインカムが要求されたのである。

以上は研究開始時点である程度予期していたことだが、他方でまた新たな課題も明らかとなった。本研究の過程で、イギリスの労働者階級の女性達によってベーシック・インカム要求が、全英女性解放運動会議の場で動議として出され、可決されていたことを突き止めた。ところがこのことは書かれた歴史の中ではまったく消し去られてしまっていた。

なぜ消されてしまったのかを理解するために、研究対象を、一方で「福祉権フェミニズム」から 1970 年代の女性解放運動全般に広げ、他方で複数国からイギリス一國に狭めた研究を、2014 年度より開始している（「全英女性解放会議におけるジェンダー／人種／階級：『第五要求』形成過程を中心に」）。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

山森亮「すべての個人に無条件給付する『ベーシック・インカム』という考え方」  
『週刊エコノミスト』2010 年 6 月 15 日号, pp. 82-84

山森亮「生活権の奪還のために：ベーシック・インカムはパンドラの函か？」  
『部落解放』2010 年 12 月号, p. 30-37

山森亮「東日本大震災と所得保障の必要性：ベーシックインカム要求が提起するもの」  
『大原社会問題研究所雑誌』no. 634, 2011 年 8 月, pp. 29-44.

Toru Yamamori, "Controverses autour du revenu d'existence au Japon", Informations Sociales, no. 168, Novembre-Décembre 2011, pp. 112-115.

〔学会発表〕（計 10 件）

2010 年 7 月 2 日：Toru Yamamori,  
"What Is To Be Done? : Political Change after the Economic Crisis and Basic Income Discourse in Japan",  
the XIII International Congress of BIEN, at University of Sao Paulo, Brasil.

2010 年 7 月 5 日：Toru Yamamori,  
"Renta Basica: How Japan Can Learn From Brasillian Experience?",  
the seminar at Pontifical Catholic University of Rio Grande do Sul, Porto Aregre, Brasil.

2010 年 8 月 19 日：Toru Yamamori,  
"Struggles for Basic Income and The Common Logic That Emarged from Italy, The U.K., and Japan",  
The 1st Korea-Japan Basic Income Network Joint Symposium on "Vision of Basic Income in Korea-Japan and a New Paradigm of Althernative Movements", at the Institute for Urban Humanities, University of Seoul, Korea.

2010 年 8 月 20 日：Toru Yamamori,  
"Neoliberals And Radical Left Are On A Same Boats: Is The Debate On "Basic Income" A Japanese Exception or A Universal Rationale Behind?",  
Keynote Speech at the 7th East Asian Social Policy research network (EASP) international conference, at Sogang University, Seoul, Korea.

2012 年 9 月 14 日：Toru Yamamori,  
"The 2011 Great East Japan Earthquake and Basic Income",  
the 14th congress of the Basic Income Earth Network.

2014 年 1 月 22 日：Toru Yamamori  
"Voices, Visions and Vanacular Value",  
Symposiums "Grundeinkommen und Demokratie",  
an der Alanus Hochschule.

2014 年 1 月 25 日：Toru Yamamori "Voices, Visions and Vanacular Value",  
Unterschätzte Gegenwart Bedingungsloses Grundeinkommen In Japan und in der Schweiz, Basel.

2014 年 4 月 14 日：Toru Yamamori

“A Feminist Vision to Basic Income: Economics in the Public Sphere,” the seminar at Nafarroako Unibertsitate Publikoa at Pamplona, Spain.

2014年6月28日: Toru Yamamori

“A Feminist Vision for Basic Income in 1970s Britain: What We Can Learn from Really Existed Activism for Democratizing the Economy”,  
*Re-democratizing the Economy*: 15th International Congress of the Basic Income Earth Network, at McGill Faculty of Law, Montreal, Quebec, Canada.  
(Accepted.)

2014年7月14日: Toru Yamamori,

“A Feminist Way to Basic Income: the Claimants Unions and the Women’s Liberation Movement in 1970s Britain”,  
*Situating Women’s Liberation: Historicizing a Movement*: A Symposium at the University of Portsmouth Centre for European and International Studies, U.K.  
(Accepted.)

[図書] (計6件)

山森亮第7章「働く: イギリス要求者組合運動における労働観」岡野八代編『生きる・間で育まれる生』(風行社、2010年11月刊行、第7章、pp.247-270).

山森亮『『生きていることは労働だ』: 運動の中野ベーシックインカムと『青い芝』中川清・埋橋孝文編『生活保障と支援の社会政策』(明石書店、2011年11月、pp.224-249.)

山森亮編『労働と生存権』大月書店、2012年1月

Toru Yamamori "Japan: Political Change after the Economic Crisis Introduces Universalist Benefit" in Richard K. Caputo (ed.) *Basic Income Guarantee and Politics: International Experiences and Perspectives on the Viability of Income Guarantee*, Palgrave Macmillan (ch.12, pp.203-216). 2012

山森亮「雇用の希少性と人間の尊厳:ロナルド・ドーアとベーシック・インカム」、橘木俊詔・同志社大学ライフリスク研究センター編『社会保障改革への提言:いま、日本に何が求められているのか』, (ミネルヴァ書房, 2012年, pp.45-64.)

Yannick Vanderborght and Toru Yamamori (eds.) *Basic Income in Japan: Prospects for a Radical Idea in a Transforming Welfare State*, New York: Palgrave Macmillan, forthcoming.

[産業財産権]  
なし。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山森 亮 (Toru Yamamori)  
同志社大学・経済学部・教授  
研究者番号: 90325994